

サステナビリティ

サステナビリティ基本方針

昭和産業グループは、グループ経営理念「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」を実現するために、多種多量の穀物を扱う「穀物ソリューション・カンパニー」として、食の源である穀物を生み出す大地とその環境を守り、穀物を余すことなく最大限に有効活用していくことが社会的使命であり、責任であると考えています。

社会の公器としてこの責任を果たしていくために、サステナブルな社会の実現と当社グループの持続的な企業価値向上の両立を目指し、ESG経営を推進してまいります。

当社グループは、こうしたサステナビリティの取り組みとともに、全てのステークホルダーの皆様とのエンゲージメント深化を通して社会との共生を目指していきます。

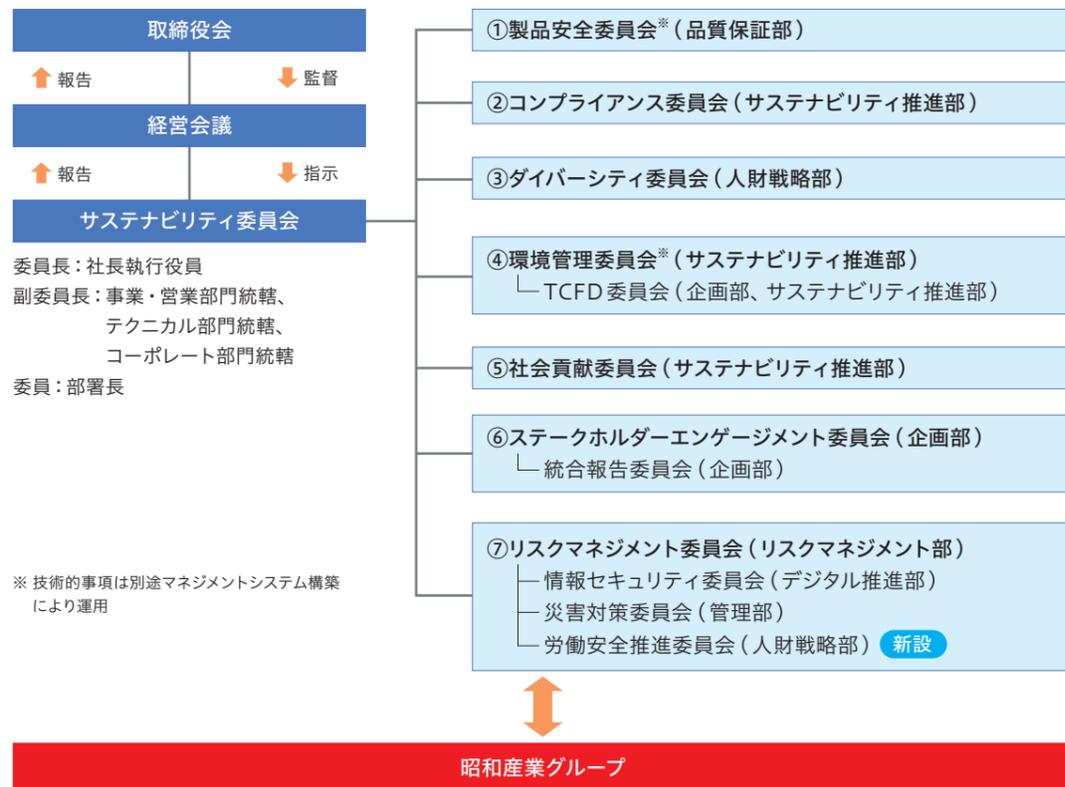
サステナビリティ推進体制

社長執行役員が委員長を務め、各部門統轄役員全員が副委員長となっている「サステナビリティ委員会」を設置しています。サステナビリティ委員会の傘下に、当社グループが重要と考える6つの社会的課題（①安全・安心で高品質な製品の提供、②公正な企業活動、③人権尊重、④環境への配慮、⑤社会への貢献、⑥ステークホルダーとの対話・情報開示）に加えて、注力している⑦リスクマネ

ジメントに関わる委員会を設置しています。なお、⑦リスクマネジメント委員会には新たな専門部会としての労働安全推進委員会を置き、労働者の安全確保および快適な職場環境形成の促進を図ります。

また、サステナビリティ委員会での決議事項は、経営会議、取締役会へ報告され、取締役会の監督を受けます。

サステナビリティ推進体制図



マテリアリティ特定プロセス

1. 社会的課題の抽出

当社グループでは、SDGs、ISO26000、UNGC、SASBなどのグローバルガイドラインなどを参照した上で、「社会にとっての重要度」と「事業にとっての重要度」との関係性を整理してきました。

2. ESG重要課題の特定 (2018年度まで)

「社会にとっての重要度」と「事業にとっての重要度」の2つの視点から様々な社会的課題を評価しました。その結果、社会の関心が大きく当社グループ事業との関連性が高い社会的課題について、CSR委員会（現在のサステナビリティ委員会）での議論を経て、ESG重要課題を特定しました。

3. 重要課題の対応方針の検討 (2019年度)

ESG重要課題に関し、包括的な解決を進めるべく、課題間の関係性を整理し、3つの重点項目（「環境への配慮」「穀物ソリューションの進化」「従業員の活躍推進」）と7つの重要課題（「持続可能な生産活動」「持続可能な資源活用」「多様な価値への対応」「安全・安心・安定供給」「ダイバーシティ」「健康経営」「企業市民活動」）としました。

「中期経営計画20-22」では、7つの重要課題については各事業にブレークダウンして推進しました。

4. 重要課題の更新 (2023年度)

社会情勢やステークホルダーとの対話からいただいたご意見やご期待を踏まえ、見直しました。様々な社会的課題について、「ステークホルダーにとっての重要度」を縦軸、「当社グループの事業への影響度」を横軸として評価（マッピング）しました。

マッピング



サステナビリティの実現に向けた取り組みを推進するために、このマッピングによる評価結果とその関係性を考慮し、3つのマテリアリティテーマと7つのマテリアリティを特定しました。

現在の「中期経営計画23-25」では、このマテリアリティと関連したリスクと機会を踏まえ、各事業の事業戦略とサステナビリティの実現に向けた取り組みにブレークダウンして推進しています（P.26）。

マテリアリティテーマ	マテリアリティ
1. 食を通じた事業活動での貢献	① 安全・安心で高品質な食の提供 ② 消費者の健康と多様化するニーズへの貢献
2. 穀物を生み出す大地とその環境の維持	③ 地球環境への配慮
3. ステークホルダーとのエンゲージメント推進	④ 人財活用 ⑤ 地域社会との共生 ⑥ サプライチェーンと連携した活動 ⑦ ステークホルダーとの信頼関係構築